



市民病院

# 八十ちゃん通信

問合せ  
市民病院管理課  
☎(48)5050

## 中央検査室からこんにちは！

医師や看護師、薬剤師など、病院のなかには様々な資格を持ったスタッフが働いていますが、わたしたちの資格は臨床検査技師といいます。あまり聞かれない職業ですが、医師の指示のもと、臨床検査を担当し、検査結果を報告するという診療支援をしています。

臨床検査は生理機能検査と検体検査の2種類に分かれています。患者さんの体のなかで何が起きているのか、現在の状態を客観的に評価することは診断や治療方針を考えるうえで重要な手がかりになります。中央採血室では採血業務を、生理検査室では心電図検査、心臓超音波検査、脳波検査、肺機能検査、聴力検査など患者さんと向き合って検査しています。痛い検査もあります。患者さんの協力が不可欠です。

検体検査室では細菌検査、病理検査、生化学検査、血液検査、輸血検査など、中央採血室や手術室、外来、病棟で採取された血液、尿、のどや鼻の粘液、喀痰、便、穿刺液、臓器など、様々な検体と向き合っています。今日も24時間体制で検査をしています。

迅速に、正確に結果を提供することで、チーム医療の一員として皆さんに貢献したいと考えています。



## 碧南の歴史へのいざない

問合せ  
文化財課内市史資料  
調査室 ☎(41)4566

### No.55 西端の「応仁寺」(2)

西端に生まれ、上宮寺(岡崎市)を継いだ如光は蓮如と会い、話し合うなかで蓮如を師とし、教えを受ける決心をしました。如光は自らの考えの浅かったことを認め、その場で蓮如を信仰のよりどころ(帰依)としたと伝えられています。

蓮如、如光ともに40歳前後のころ、三河では、太子信仰、熊野信仰、善光寺信仰が複雑に交錯し、一定の門流にまとめきれない様相があった(「本願寺教団展開の基礎的研究」青木馨著)とされています。そのなかで歴史ある上宮寺の如光が、蓮如に帰依し、本願寺を支えるということを明確にしたことが、その後、三河での大きな流れとなりました。

蓮如は、父の死にともない1457年、42歳で本願寺8世を継ぐことになりました。しかし、そのころの本願寺は、真宗の中心的な寺院の格を失っていました。また、比叡山延暦寺からは、「知恵も力もない凡俗が、弥陀の本願を信ずるだけで浄土へいけるといのでは、本願寺の教えが広まってしまう」と弾圧が加えられました。

1465年正月9日、如光51歳のとき、比叡山山徒が大挙して、親鸞の墓のある大谷本願寺へ押し寄せてきました。ここに居合わせた如光は、暴れ狂う山徒を追い散らしたという逸話が残されています。

応仁2年(1468年)、蓮如は如光の強い勧めにより、如光のふるさと西端に来て、西端を拠点に三河で布教をしたといわれています。如光の一族である杉浦家が新築した道場は、蓮如が開基となる応仁寺のはじめの姿とされています。



△蓮如上人絵伝第三幅「比叡山山徒を追い散らす怪力の如光」栄願寺(西端区)蔵